



他業界の大手企業も多数出展！ 農業最新技術の展示会「農業Week2020」が開催

農業Week2020（次世代農業EXPO、畜産資材EXPO、6次産業化EXPO、農業資材EXPO）

- 期日：10月14日（水）～16日（金）
- 場所：幕張メッセ
- 主催：リードエグジビション ジャパン株式会社
- 内容：農業に関する総合展示会

■新型コロナ対策を実施して多くのブースが出展！

今年で第10回を迎える「農業Week」が10月14日（水）～16日（金）の3日間、幕張メッセで開催されました。「農業Week」は「次世代農業EXPO」「畜産資材EXPO」「6次産業化EXPO」「農業資材EXPO」の4つの展示会で構成され、毎年多くの農業関係者が会場を訪れ、最新の農業資材について商談や情報収集を行っています。

今年については、新型コロナウイルスの影響により出展を中止するブースも見られましたが、多くの出展企業と来場者で会場は賑わいを見せていました。会場では新型コロナウイルス対策もしっかりと実施されており、医師と看護師が医務室に常駐し、来場者にはマスク着用や入り口でのアルコール消毒液による手指の消毒と検温が徹底されたほか、各ブースも独自の消毒の設置や展示を減らして来場者が間隔を保てるようにするなどの対策が講じられていました。



入り口でコロナ対策を徹底



ブースにも消毒液などを設置

■農業関係の最新技術が数多く展示！

各EXPOでは、テーマに応じた様々な資材やサービスが展示されており、来場者の関心を集めていました。各EXPOには、自動車メーカーの「トヨタ自動車」や「ダイハツ工業」、総合商社の「双日」といった有名な企業からベンチャー企業まで幅広い会社が出展をしており、様々な業界からの農業分野への高い関心が窺えました。

「トヨタ自動車」のブースでは、ほ場全体の肥料分布が測定できる「リアルタイム土壌センサー」が展示されていました。これは、センサーをトラクターにつけてほ場を走ることによってセンサーが土壌内の肥料分を計測し、データを収集していくといったものです。収集したデータは2日ほどで分析され、ほ場全体の肥料の状態が把握できるとのことでした。

データに基づいた栽培を行う上で欠かせない環境測定機器では、測定したデータがクラウド上にアップロードされ、スマートフォンのアプリで確認することができる環境モニタリングシステムが展示されていました。展示されていたものは太陽光発電で稼働するため、近くに電源のないハウスや露地、水田など幅広い状況で使用可能となっていました。また、アプリからデータを確認できるため、家族やグループ内での情報共有も容易にできる仕様となっていました。

機材だけではなく、農業経営をサポートするための様々なサービスを提供する企業の出展も多くみられました。特徴的なものでは、LINEで簡単に市況情報の検索や農業資材の検索・購入が行えるほか、サービスを利用している生産者同士が情報交換をしたり交流ができるものなど、生産者の情報収集をサポートするサービスが見られました。この他にも、AIを活用してドローンで撮影した画像から作物の生育状況を解析するサービスなど、様々なサービスが展示されていました。

今回の展示では、機材・サービスともにグループ内や生産者間での情報共有を促進するようなものが多くあったように感じました。



環境測定装置の展示



様々な情報を提供するサービス